

## バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業

救急科部看護師 服部 智奈津

派遣期間： 2019年7月1日～2019年12月18日

派遣地：バングラデシュ・コックスバザール

2017年8月以降ミャンマーのラカイン州より暴力行為から逃れるため、国境を越えてバングラデシュ南部に移動した避難民の数は70万人を超えます。以前からの避難民を合わせると90万人以上が避難し、その多くが2年以上経過した現在も避難民キャンプで生活を送っています。

日本赤十字社（以下、日赤）は、2017年9月より避難民キャンプ内に診療所と移動診療による医療支援を開始し、バングラデシュ赤新月社の医療スタッフや避難民であるボランティアとともに診療所での医療活動を継続しています。さらに2018年5月より中長期支援としてキャンプ内住民に対して地域参加型の地域保健衛生活動を行っています。現在日赤は現地に事業管理要員1名と保健要員2名を派遣し、当事業の支援を継続しています。

避難民キャンプは丘陵地の木を伐採して設置されているため、土地の地盤は弱く、大雨やモンスーンの影響により地滑りを起こす危険性があります。日赤が支援している診療所も例外ではなく、安全に診療を継続するため地盤強化と建て替えの工事を進めていましたが、ようやく2019年9月末に待望の新診療所が完成しました。

診療所では、毎日100人前後の患者さんの診療を行っています。風邪や皮膚疾患、怪我などの患者さんが多い一方で、生活習慣病などの慢性疾患、妊産婦健診、母子保健へのニーズも高く、それらのニーズにも対応できるよう医療スタッフ、ボランティアが協力しながら運営を進めています。医療スタッフやボランティアの多くは診療所開設当初から働いている人たちで、チームワークも抜群です。彼ら自身で自立した診療所の運営に向けた体制づくりを目指して、我々は支援を継続しています。

診療所での医療支援と並行して実施している地域保健衛生活動は、地域の人々が正しい生活習慣や病気の予防方法、応急手当を知ることで、自分たちの健康を守り、地域の健康衛生状況が改善していくことを目指しています。これは、感染症の流行や自然災害発生時に、自ら対応し回復する力を身に付けることにもつながります。地域保健衛生活動の鍵とな



避難民キャンプの様子



新設された診療所

るのは、避難民の中から選ばれた地域ボランティアです。キャンプ内に居住する彼らに、赤十字社・赤新月社運動、救急法、流行性感染症、栄養、母子保健および家族計画、心のケアといった健康や衛生についての知識について研修を受けてもらい、彼らが地域住民に対して啓蒙活動を行っています。私の主な役割は、バングラデシュ赤新月社スタッフとともに地域ボランティアの活動をサポートし、この地域ボランティアが地域の人々のニーズに沿った健康や衛生に関するメッセージを届けることができるよう活動の質を向上させていくことでした。

地域ボランティアの方々は毎日暑い中、一件ずつシェルターを訪問し病気の予防法や応急処置の方法について地域の人々と話し合い、正しい知識を伝える活動を継続しています。活動には避難民キャンプ内のニーズに沿ってバングラデシュ赤新月社が作成した教材が使用されています。ボランティアの中には読み書きができない方や、女性ボランティアの中には今まで家庭の外にでて人前に立つ経験が全くなかった方もいらっしゃいます。そんな彼らが保健衛生に関する知識をしっかりと身に付け、地域の人々のニーズに沿った形で地域に広めていくためには、教材を用いた繰り返しの訓練や活動に対する適切なフィードバックが大切です。教材を有効に活用できるよう、バングラデシュ赤新月社スタッフとともに研修の開催や毎日のミーティングにてボランティア同士での教材の使用練習を実施しました。また、地域ボランティアの活動に同行し、活動の振り返りを大切に、地域ボランティアの方々がより自信をもって活動ができるようにサポートしました。活動には、文化的、宗教的背景により母子保健や家族計画について伝えることの難しさや、地域の人々の活動への参加など様々な課題があり、今後も支援は続きます。

冒頭にご紹介したように、避難民の方々がバングラデシュ南部へ避難してからすでに2年以上が経過しています。診療所や地域保健衛生活動に従事するボランティアも避難民であり、彼らの生活や将来への不安は計り知れないほど大きいものと想像します。しかしそういった環境の中でも、相手を尊重する姿勢を忘れず毎日活動を



地域ボランティア向け研修



地域ボランティアが地域の人々へ感染症予防について説明をする様子



診療所に付き添って来た子供たちに手洗い指導



熱心に取り組む姿に、私が学ばせていただくこともとても多くありました。彼らの生活環境は以前に比べれば整っているのかもしれませんが、まだまだ限られた資源の下、厳しい生活を送っています。彼らの今後はどうなっていくのか答えはありませんが、避難民の方々の尊厳が守られながら、健康状態が少しでも改善していくよう、赤十字・赤新月社の活動にさらなるご理解・ご支援をお願いいたします。



Bangladesh Red Crescent staff and community health activities



Clinic medical staff, interpreters who are refugees

※国際赤十字では、政治的・民族的背景及び避難されている方々の多様性を配慮し、「ロヒンギャ」という表現を使用しないこととしています。